

『若き助っ人』!! 初めての名勝小金井桜「切り接ぎ」に挑戦

2022年3月18日あいにくの雨模様の中、植竹副会長の車に便乗して杉山技術顧問と小沼の3名で接ぎ木用の古木から採取した9種類の「穂木」を持って、午前9時15分「接ぎ木講習会」を行うため都立府中農業高校に車で向かった。到着すると既に佐藤先生・田口先生の指導で「台木」となる昨年6月に採取した小金井桜サクランボから発芽したホトトギス苗が運び込まれおり、緑地計画科1年生30数名の生徒たちが出迎えてくれた。



緑地計画科1年生30数名



接ぎ木の台木となるヤマザクラ実生苗

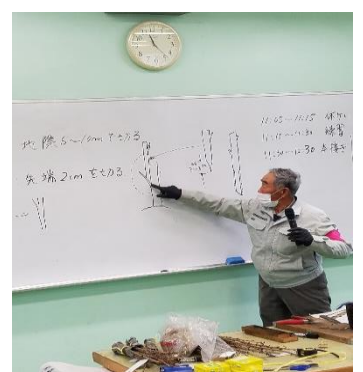
会長小沼の挨拶の後、植竹副会長の『名勝小金井桜の由来』と当会の活動内容を説明。その後、杉山技術顧問から名勝小金井桜を次の世代に継承するためには、名勝指定された100年前に所在していたと推測される幹回り200cm以上の純粋なヤマザクラ古木の穂木を接ぎ木して二世を残し、植樹することで地域の歴史的文化遺産を次代に繋げる意義を説明し、若い皆さんがそれに取り組んでいただけることに期待と感謝のお礼を申し上げると挨拶し、接ぎ木は鋭利な刃物を使つての作業となるのでケガの無いよう十分注意してくださいと話し、接ぎ木を行う作業工程を解説した。



名勝小金井桜の由来を説明する植竹副会長



若い皆さんが取り組んでくれることに感謝



接ぎ木の作業工程を説明

名勝小金井桜の古木9本から採取した切り継ぎ用の穂木を前に、実際の「切り接ぎ」の仕方についてお手本を3グループに分けて生徒さんに丁寧に説明・見てもらった後、各自が練習用の穂木で初めての「切り接ぎ」を実習した。



穂木を前に説明



実際にお手本をみんなが注目



慎重に穂木を加工



お手本を見る生徒と実際に練習する生徒

2022 年名勝小金井桜後継樹「切り接ぎ」母樹一覧

No.311	No.313	No.329	No.340	No.361	No.365	No.414	No.415	No.417
2021年3月28日開花 2020年3月27日開花 2019年4月09日満開 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月17日開花 2020年3月20日開花 2019年4月02日満開 柵外側	2021年3月28日開花 2020年3月27日開花 2019年3月27日満開 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月30日開花 2020年3月27日開花 2019年4月09日満開 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月28日開花 2020年3月27日開花 2019年4月02日満開 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月28日開花 2020年3月27日開花 2019年4月03日満開 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月28日開花 2020年3月25日開花 2019年4月05日開花 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月30日開花 2020年3月30日開花 2019年4月07日開花 古木・母樹候補 柵外側	2021年3月28日開花 2020年3月25日開花 2019年4月04日開花 古木・母樹候補 柵外側
遅咲き・茶芽葉	早咲き・茶芽葉 古木・母樹候補	早咲き・茶芽葉	遅咲き・緑芽葉	中咲き・赤芽葉	中咲き	遅咲き・茶芽葉	遅咲き・茶芽葉	中咲き・茶芽葉
203.0cm	253.0cm	203.0cm	260.0cm	242.0cm	250.0cm	200.0cm	272.0cm	345.0cm
ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ヤマザクラ	ワシヤマザクラ
								
								
2019年4月09日撮影	2019年4月02日撮影	2019年3月27日撮影	2019年4月9日撮影	2019年4月2日撮影	2019年4月3日撮影	2019年4月3日撮影	2019年4月07日撮影	2019年4月04日撮影
No.311	No.313	No.329	No.340	No.361	No.365	No.414	No.415	No.417

9 本の名勝小金井桜古木から二世を「切り接ぎ」しました

各自練習を終え、イザ・本番!! 1 人 3 鉢ずつ合計 100 鉢近くの名勝小金井桜古木の後継樹の「切り接ぎ」に挑戦!!
名勝小金井の会会員の「切り接ぎ」活着率は過去 2 割弱でした。ちなみに杉山技術顧問は約 7 割か～8 割の活着率です。生徒の皆さんの活着率(成功率)果たして・・・楽しみです。



真剣に切り口を整える



杉山技術顧問が各テーブルを回って



切り接ぎ作業が終わりビニール袋を付ける

台木を 10 cm ほどに切断し、切り口に穂木を入れ込み、テープでしっかり固定し、切り口が乾かないようビニール袋をかぶせ、名札に母樹番号・今日の日付・自分の名前を書いた名札を付けて完成。一人 3 鉢を保存ケースの収納。これから水を枯らさないよう育成管理が始まり、うまく活着すると接穂の芽が成長し、枝となってくれば成功・・・果たしてその成功率は????



終了し、収納ケースへ・・・



母樹番号も自分の名前もちゃんと



本日の「切り接ぎ講習会」終了

2021 年 9 月 29 日都立府中農業高校 1・2 年生による『名勝小金井桜芽接ぎ講習会』を実施した接木は果たして活着しているのか？ まだ芽があまり動いておらず、その成否は確認できなかった。あと 1～2 週間するとその成否が確認できる。何本かは成功するのではないかと杉山技術顧問の見立てであった。



雨の降る中か『芽接ぎ』したポットを点検する杉山技術顧問

2022 年 3 月 14 日午前中に府中農業高校緑地計画科 1 年生により小金井桜後継樹 43 本を分倍河原本町農場への「定植」した農場を佐藤・田口教諭の案内で、見学させていただきました。

場所は京王線分倍河原の近く、東京農工大学の田んぼ農場に隣接して、見るからに肥沃な苗木育成に適した畑でした。3 月 14 日に生徒による稲わらにより幹巻が一本一本きちんとされ、学校が作成した「さくらプロジェクト」の番号札がそれぞれ付けられ、後継樹の詳細情報(母樹番号・接ぎ木年月日・幹回り等)は台帳で管理されているとの事です。

小長久保育苗ファームから比べると、苗木育成の畑としての条件に各段な差があり、今まで以上の成長条件が整っており、苗木にとって最高の場所となったようです。



綺麗に整理定植された 43 本の後継樹



わらによる幹巻と名札



そばには堆肥がストックされていました



都立府中農業高校の分倍河原本町農場

寄贈した後継樹 43 本!本町農場に定植

2022 年 3 月 14 日午前中に府中農業高校緑地計画科 1 年生により小金井桜後継樹 43 本を分倍河原本町農場への「定植」が無事行われたとのご報告を担当の佐藤教諭から頂きました。

名勝小金井桜の育成事業が名勝小金井桜の会から府中農業高校へ引き継がれ、今後は当会とのコラボレーション事業として未来を担う高校生により本格的にスタートしました。

名勝小金井桜の会

会長 小沼様

昨日サクラの苗木 43 本を本校の本町農場へ無事に植え付けました。

明け方は雨が降りましたが、その後天候は晴天で約 25℃位と暑く、
久しぶりに汗をかきながら 1 時間半程度の時間で植え付けを完了しました。

様子を見て支柱を立てます。

農業高校 佐藤

当日の様様をレポートいただきましたので報告します。

本町農場サクラの定植 (2022 年 3 月 14 日午前 10 時から 12 時)



植付けの様子 (植穴掘り→腐葉土施肥→植付け→水極めの工程) 左のフェンス側より品種ごとに樹高の高い順に植付け



植付後に水極め (水はバケツ 2 杯分、そのあと棒で突いて水と土を馴染ませる)



植付後に参加生徒と記念撮影

3月18日午前10時から当会杉山技術顧問の指導で「切り接ぎ講習会」を開催します。

2022年(令和4年)3月12日(土) 享月 日 薬斤 辰巳

ケヤキ並木守ろう 中 農業高校生ら種まき 府

府中市のシンボル「馬場」この日同高遠部や太門のケヤキ並木を守り、継いでいくと、都立農業一高の環境委員会の児童ら、高校の生徒や府中第一小、中学校の子もたちが8日、並木の一角で種まきをした。同高と市が連携したプロジェクトで、育っていく様子を市民にも見守っていく。

府中第一中の生徒ら＝府中市寿町1丁目、同市提供

ながら、1年後には70センチに育つという。京王線府中駅から大國魂神社への参道に約120本と伝わる。近年、寿命を迎える並木、源頼義・義家父子が寄進した、徳川家康が献上した馬場に植えたなど、子孫に受け継がれる木を守る。別所から苗木を移すのではなく、落ちた種から苗木を育てることで、若返りを図ろうと、2017年から同高の生徒らが種を拾い、校内で育てている。21年3月に同高と市が連携協定を結び、近隣の小中の子どもたちも参加。同年秋、一緒に種まきをした。発芽後の手入れなども、部活動や委員会活動を通じて定期的に行う。順調に育

ては8年後には約3メートル、20・30年周りの並木と同じ15・20センチに育つという。同高緑地計画2年の目標は、約17は種まき後、「ちゃんと育て、後継に引き継ぎたい。卒業しても様子をみたい」と話した。(小林恵子)

きょうの花情報
多摩 23区
非雨に多い
非雨に多い

潮
13日・若潮
東京港
満潮 3.59
干潮 13.12
満潮 9.07
干潮 20.28

きょうの天気
6-12時 晴 降水確率 12-18時 晴

0	大手町	0
0	練馬	0
0	府中	0
0	八王子	0

大手町 東北東 府中 八王子
練馬 北北東 東 八王子
湿度 20% 波 0.5m 最低 7度 最高 21度
気温 21度 20度 20度
気圧 1013hPa 1013hPa 1013hPa
風速 1.5m/s 1.5m/s 1.5m/s
日照 あり あり あり

大手町 練馬 府中 八王子
湿度 50% 湿度 50% 湿度 50%
3月13日(日) 3月11日(日)
日 5.55 17.46 12.36 2.57
月 10.4

参考:府中大門ケヤキ後継樹育成も大事なプロジェクト

「年度末 BQQ の集い」と「切り接ぎ講習会穂木の採取」

2022 年 3 月 05 日、今年度最後の野外活動は、小長久育苗ファームが閉鎖したことに伴い「年度末野外例会 & BQQ の集い」を小金井公園内杉山造園植木畑内で 8 名の会員及び長島昭久衆議議員をゲストに迎え、楽しいひと時を過ごした。長島議員は会員から小金井桜の歴史と当会活動内容のレクチャを受け大変感動され、国の名勝である小金井桜の復活について国会議員の立場から全面的に応援したい旨のお話もあり、翌 6 日にご本人からお礼のメールと、新年度から是非会員として活動させてほしいとのご意向を受けました。

また、3 月 18 日に予定されている都立府中農業高校での「切り接ぎ講習会」の古木からの「穂木」の採集を 3 月 7 日午後 2 時から行うことを決定し、6 名の参加で名勝指定の 1924 年当時に所在していた可能性の高い幹回り 200 cm 以上のヤマザクラ古木 9 本の「母樹候補」の穂木を採取し、18 日まで冷蔵庫で保管し、杉山技術顧問のご指導で「切り接ぎ講習会」を行う準備をしました。



母樹候補の古木の穂木を選定する杉山技術顧問



穂木採取の補助をする風間会員



採取した穂木の説明と整形をする



穂木を新聞紙で保護し、水を含ませて保管



9 種類の古木からの穂木にそれぞれの番号札を

**都立府中農業高校緑地計画科 1 年生（約 30 名）と一緒に
名勝小金井桜の後継樹育成が本格的に始まります**

シリーズ 4・名勝小金井桜を守る若き助っ人

2022 年 2 月 26 日 名勝小金井桜の会 小沼記

2022 年 2 月 25 日、府中農業高校の佐藤先生から名勝小金井桜の後継樹苗の『幹巻き』実習を 1 年生生徒により行ったとのメールをいただきました。『名勝小金井桜を守る若き助っ人』により早速活動が始まり、頼もしい限りです。頂いたメールと当日の写真をご報告いたします。

なお、3 月 14 日に分倍河原駅の近くの実習農園に「本植え」行う予定とのこと、又 3 月 18 日には杉山利男技術顧問に講師をお願いし、本会会員も助手として参加して、「切り接ぎ」講習会を開催する予定です。

本格的に、府中農業高校の生徒さんとの名勝小金井桜を次代に継承するコラボレーション事業が始まります。

参加ご希望の方は是非ご連絡ください。詳細をご連絡します。

小沼様

本日 2 月 25 日、仮植したサクラの苗木に生徒一緒に幹巻きしました。

実習の様子をファイルに添付します。

なお、生徒の顔がはっきりとわからないように多少加工しています。

定植は 2022 年 3 月 14 日（月）の午前 9 時から 12 時の時間帯を予定しています。

移動時間を含めると、定植の開始時刻は午前 9 時 50 分前後かもしれません。

農業高校 佐藤

サクラの幹巻き (2022 年 2 月 25 日午前 11 時ころ)



1 年生 32 名で樹高の 2/3 を目安に幹巻き



実施前に幹巻き方法を説明

(ワラを幹に充て、しゅろ縄を末口から元口へ巻く)



幹巻きを終えた様子



本校の本町農場へ定植する予想図（支柱の高さや幅はイメージです）

府中農業高校に名勝小金井桜後継樹苗」43本を寄贈 小沼・杉山・風間・竹前・清水 5 名で持参

2022 年 2 月 9 日午前 10 時府中農業高校へ 43 本の小金井桜後継樹苗を持参・寄贈しました。
当日は午前 10 時から 10 時 50 分の 1 年生の授業として校庭の苗圃に「仮植え」をしていただき、2 月の授業で「幹巻き」等の実習をされ、3 月中旬に分倍河原の農場に「本植え」をされるとのことです。



持参に参加された風間・杉山・竹前・清水会員



43本の仮植えを待つ名勝小金井桜後継樹苗



植樹場所に横付けで待つ後継樹苗たち



既に植樹場所が用意され搬入を待つ苗圃



植樹苗の説明をする杉山顧問



整列し、説明を受ける府中農業高校 1 年生



早速植樹する若い後継者たち



さすが若い力、作業もテキパキ



それぞれ作業も手慣れたもの



竹前会員も一緒に植樹



大勢でやると早い



若い助っ人に大いに期待する作業でした



総勢 36 名の府中農業高校 1 年生と共に記念撮影

参加された当会会員感想

小長久保ファーム撤退に伴う桜苗木 43 本を都立府中農業高校へ寄贈するという、名勝小金井桜の会としては新たな活動協力で感動いたしました。

高校生の熱心な植栽作業を男女協力もとに前日に掘った穴に植樹し、乾燥した土地にたっぷりと水を入れている作業は。我々名勝小金井桜の会員も満足する活動内容でした。

これから慈しみ育て、2～4年後に桜の花が咲くことに期待をしている姿が感動的です。

名勝小金井桜の会の技術顧問の杉山利男さんの指導で「接ぎ木」を行った苗が順調に成長していることに感動しました。将来、生徒たちが卒業されても玉川上水の4市（小金井市、小平市、西東京市、武蔵野市）にまたがる名勝小金井桜のヤマザクラ並木が立派な郷土の文化遺産として連なることを祈っています。

西東京市在住 風間 裕一

小金井市報「小金井桜特集」を見た市内在住の府中農業高校の先生が、是非うちの高校で苗木育成に取り組みたいとの提案から始まったと聞いて、大変うれしく思うと同時に小金井桜が未来につながる期待感が大きくなりました。

そして、生徒さんたちが笑顔で苗木運びや土をかけている姿、そして、杉山さんの指導で「接ぎ木」した苗を見てもらい「この木はしっかり生きてるよ」と言われた時の生徒さんの喜びを見て、小金井桜はこれからもしっかり未来につながっていくと確信しました。

小金井桜の会会員 清水 がく

シリーズ 2・名勝小金井桜を守る若き助っ人

2022 年 2 月 9 日 名勝小金井桜の会 小沼記

都立府中農業高校生による「芽接ぎ」はたして成功か・・・

2021 年 9 月 29 日都立府中農業高校 1・2 年生による『名勝小金井桜芽接ぎ講習会』が杉山利男当会技術顧問の指導により各人 2 鉢の生まれて初めての名勝小金井桜の『芽接ぎ』を行い、3 か月が経過し無事に台木に活着しているかどうかの状況を 2022 年 2 月 9 日に杉山顧問により 1 年生の生徒と共に点検を行った。

その結果杉山顧問の判断では、何鉢かは何とか活着しているようで、初めての素晴らしい結果である。しかしこの「芽」が幹として成長するか否かは 4 月以降にならないとわからない。これからの育成管理が非常に重要であり、水やりを欠かさないととの指導があった。

当会の会員による「接ぎ木」成功率が 2 割程度の後継樹育成であったものが、「復活の若き助っ人」高校生の快挙が期待され、成功した暁には、ぜひ自分の名前を付けた「〇〇桜」と命名してもらいたいものです。



9 月 29 日に初めての「芽接ぎ」に挑戦！果たしてその成果は



接ぎ木のポットを点検する杉山顧問と高校生



各人 2 鉢の名前を付けた「接ぎ木」ポット



果たして接ぎ木した「芽」は活着しているか否か



もう少し様子を見ないとわからないな???..



これは確かについて芽がしっかりしている



大成功、4 月が楽しみ

東京新聞

2021年(令和3年)10月3日(日曜日)

多

小金井桜 復活に若き助っ人

玉川上流沿いの小金井桜の並木。小金井市で、3月撮影



小金井市などを流れる玉川上水沿いのヤマザクラの並木「名勝小金井桜」を、関東一と呼ばれたかつての姿に復活させるプロジェクトに頼もしい助っ人が加わった。府中市の「馬場大門のケヤキ並木」の再生に役立っている都立農業高校(同市)が新たに小金井桜の育苗に協力することになり、同校で接ぎ木の講習会が開かれた。

(花井勝規)

同校の佐藤武仁教諭は「生徒たちは初めての接ぎ木に戸惑いながらも、杉山さんの長年培われた技に感動していた」と語る。これまでサクラの街路樹の育苗やケヤキ並木の再生などに取り組んできた同校専修実習助手の田口嘉朗さんは「授業や部活動の場で、文化的価値の高い小金井桜の保護、再生に携われるのは意義深い」と話していた。

「桜の会」杉山さんに接ぎ木ノウハウ学ぶ

杉山さん、手前の手ほどきで小金井桜の接ぎ木やり方が伝授された講習会。府中市の都立農業高で、小沼広和さん撮影

まり、一九二四(大正十三年)、小川水衛所(小平市)境橋(武蔵野市)の六ヶが国の名勝に指定された。当時は約千四百本あったが現在は九百数十本まで減少。古木が多く、枯死の危機にある。

復活プロジェクトは都と小金井市などが十年前から進めている。



都立農業高生 育苗に名乗り

講習会は九月下旬、サクラの保全をしている市民団体「名勝小金井桜の会」の技術顧問で造園業の杉山利男さん(八〇)を講師に行われ、同校緑地計画科の生徒や教職員ら十五人が参加した。会では、玉川上水沿いで拾い集めたサクラノボを発芽させて育てた苗二百鉢を同校に寄贈。講習会では、杉山さんがその苗を鉢木にして、小金井桜の古木から採取した芽を接ぎ木するノウハウを手ほどきした。サクラノボから苗を育てると自然交配して、ヤマザクラ以外の品種が交じることがあり、小金井桜と同じ花を咲かせるには古木の芽を接ぎ木する必要があるという。

都立府中農業高校による名勝小金井桜苗の育成

- ①2021 年春、都立府中農業高校から『名勝小金井桜苗育成事業』を学校の事業として取り組みたいとの要望が小金井市にあり管理者である都教育庁と協議のうえ、当会に協力要請があった。
- ②都立農業高校の担当教官と小金井市・当会との協議の結果、今後「接ぎ木」をする台木のサクラノボ採集・発芽については当会の事業とし、毎年 9 月に農業高校に台木贈呈行い、翌年春に「切り接ぎ手法」により接ぎ木を学校の授業として行うこととなった。後継樹を育成事業について接ぎ木の手法の指導・協力の依頼を受けた。
- ③2022 年春予定の「切り接ぎ木授業」のイベントとして、秋の「芽接ぎ講習」を 2021 年 9 月 29 日午後から府中農業高校に於いて、1.2 年生の部員 9 名が指導教官と共に部活動として行い、名勝小金井桜 6 種類の母樹から採取した穂木で「芽接ぎ」を当会杉山技術顧問の指導により各人 2 鉢、18 本の「接ぎ木」を行った。



台木となる桜苗の前に小金井桜の歴史を紹介



「芽接ぎ」の手法を説明する杉山技術顧問



実際にお手本を披露



各人「芽接ぎ」に挑戦



小刀で慎重に芽を採取



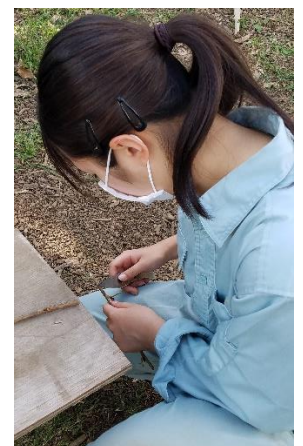
初めての芽接ぎ作業



2 年生は 2 回目の経験



各人 2 鉢、芽接ぎ完了・来年春には芽が・・・



手を切らないよう慎重に